



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
電話 東京(03)5777-2351代表
©日刊自動車新聞社2023

6月26日
(月曜日)

EV向けバスバー生産能力増強

子会社に4億円投資

サンコール

サンコールは、電気自動車(EV)など向けのバスバー(導体棒)の生産能力を増やすため、連結子会社のサンコール菊池(春田高宏社長、熊本県菊池市)に約4億円を投資すると発表した。日本メーカーが2025年に量産するEVへの受注が決まったため、

生産体制を整える。バスバー事業の売り上げは、25年度に40億円規模になる見通しだ。すでに4月から一部生産を開始し、24年冬頃にフル生産までもっていく。バスバーは広瀬工場(愛知県豊田市)で生産しており、今回の投資により生産能力は1.5〜2倍

に増える。具体的な生産量は明らかにしていない。

バスバーは、銅などの金属で出来た導体棒で、ワイヤーハーネス(組み電線)の代わりにインバーターや電池パックなどのユニット間をつなぐ配電部品の一つだ。同社はマルチフォーミングと呼ばれる独自の加工技術を持ち、2径の超長尺バスバーにも対応する。13年にハイブリッド車(HV)向けで採用され、近年、日本メーカー2社のEV

向けでも受注するなど、需要が高まっている。

同社は、バスバー事業の売上高を25年度に25億円程度と見込んでいたが、新規受注が決まったことで40億円規模まで増える見通しになった。サンコール菊池の春田社長は「EV化時代において顧客ニーズに対応し、未来の製品を造り出す会社を目指す。今後、どう強みを出していくか、どうコストを下げっていくかが勝負どころだ」と語った。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。